繪入

一体たなすゑ

三

1742
3

へ 13
1742
3
特

一休はなし中之巻目録

一 山伏一休とさぐくとわたくしあり付
大乃かゆ乃ないのこと

二 女乃死びとかと門へ乃付仏果とゆふ

三 山ぶし乃道と修ちく数珠ゆ付掛字ゆ云ふ

四 霊異女乃絵ゆさんとうさきゆふ

五 太箒賣と遊び死のふゆ付殺とりてゆ寺乃

六 酒小盗く牡丹と煙ゆ付庵僧小菩提乃

七 蛙川彩花馬語則とゆうさうく

（）蛭川新左衛門未刻より出船の所付参詣の事

九 新右衛門が女房八つ

十 一休乃弟子ゆかりの寺法事 ㊀ 一休禅師の

十一 同口淳乃くもりとうひのふる

十二 同かくれんぼ乃せんぎ配とる付引寺八つ

十三 沙門忍ぶとかきて一休よりたとる

十四 一休おぼえ記くくふる付雑談とうの

十五 蝸牛乃つのくるる付南極地蔵の事

十六 一休ゆかりとたばからるる

一休とかし生之中

㊀ 一休和尚博へ出るる時淀乃川漁夫よりこふうの。

同一休伝のいとをうく稼法ふるは

物くるくるきとくいわくじとわざけるる。一休ゆ

ゆいをきるくおかしいとをいくくとさるくわ

いんを拾へと伝られれいぶく物ゝ法かくくぱ山母の

色さにしぶぶくとあのるの出くれ同ふけんく。一ふと

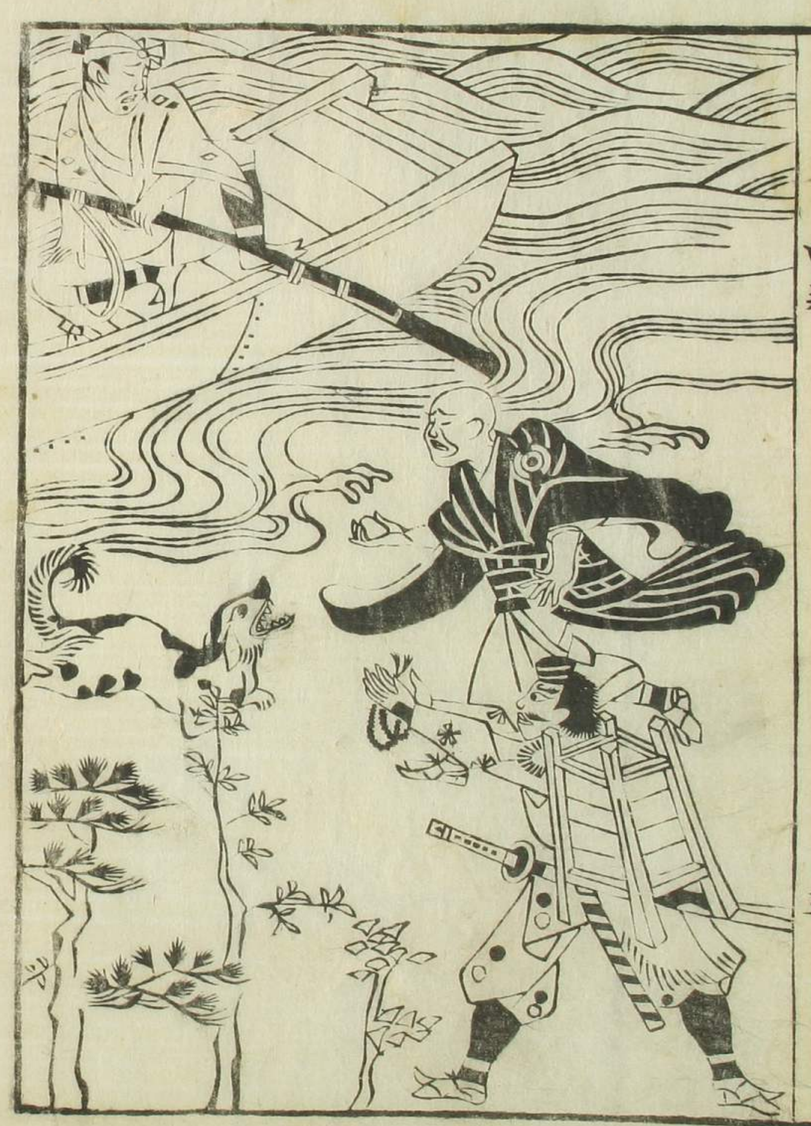
んかくこ二ホせいうとくめくくりとんりとうで彩るけ

ま伝者くこふあひのたんた。同とくくりんわるを也和る変

ふあんの乃ごとく船乃色さにふたちもち母どうのざう

わるいれやへえんとこそのいくさをぞ時山師ぢくねん
とぢうもくおろくおがこそうふとりそれば法人ふ
ぐれんひとりそれたぞ一体い更よふうぐきをうきそ
うえいぢ稲荷かうこうさどくいやるふーうそんとぜろ
けくやりそれば我しがうさどくはかうろ法ぢ。
わろやえんとねふ神とうくえんせん法ふ形ま人
うくねふ神ろざこのえ稲よふ便とうてうきけ
えへいや稲いたちまちうくふ山師ろ法かつきたる法。
きけこそ人一体とれしくあこ奥のろひとうそえ。
板舟ちわぐら法法とけつまろふじろひよ
ろうう初大うた山河まひぐくぐらふやえくかろ

それぶぶーやうぶいえん法場ぢれのろくべよ社まけき
つきたおろおそろしきいぬろいうとやあきぢ兵今も
へよびよもと法力とわーいさんが法稲いろにとやうろ。
一体ぢいいやもきうえ先いのうくえんまへろ赤
どは我ーふまうぢまへとろまへぶ山師赤赤ろ珠数の大いう
うろどうきうくくしおーんくぶいのうり社いのうりうが一切だ
いやしやまぢぶよりうへ赤うろ神んとふうりうぶりきぬや
ようきぬけくく十文字ぶだろ慢とあよぶわびーうんうん
そうろくくとりへたぶうしーい更ふあうりうぶ体おうーくふ
しねぶそこのきうへぶそれ稲ろうふわびーもうんうんを。
そもうもへうそいわーびぶのだろいうとやあだちぬち



そへ家〳〵せんとぶところつよらひろげろやらあーれ出
しぶころつくくとのまへいさーというれろたゐれどやれ
めーー一目みくーーちらんくとそ尾とふろのけくさ
ちろぶ大ふれめとうーぬみゐ人根色名ろあ
そそんろれとがんふくくぞそろれろ
(二)ばーとやろ人乃おくぐるれ果られるるぶ今ゐ
時乃ひおふれ紙ゐ山年まく伝た法たまーだーてぶ
くるちまつぶ球小女い法ふゐ世いとん色
とゐーぶるら及びーぶーーされのく一休ハ今の世のぶろ
風ゐとやんーふるる名ふれがんぐ等といたのこまらく
えさせまぶ会ふーひわふーーば妻ゐゐくく一休色

あるくぞ。そこ中とうくとやとられぬ。そこ年を仏ぬ法
ちゝまどは。大方ゝくいうゝこゞゝてゞきあゞゝ秋ふゞ百を
さゞけくまとゝふゞるさん。ゝ百義よせん百。鴨川へつまゝ
てゞそまゝ産ゞとゝちかつまくゞ川乃ゝゝふるゝゝ
ばゞを死人と出せまゝて。一体れ死人の首ふゝ百ゝつけ。
ひゝゝこゞけくゝ川春ふゝくくのゝ海ゝ

河内紙ゞゝくくわせゝゝゝ海ゝくゞゝきゝれ義ゝ
見あゝゝゝのおどゝゝねゞのゝれさよ
とくゝ川見ゞふゝゝあゞけとそゞやゝゝ活ひゝゝ妻や
みたおどゝゝくゞは氣をゝゝゞゝゝやゞ一白ハ江ゝ
ゝひゝふゝゝゞかゝゝそのゝゝびゞゝゞ技ゞゞと

引わけ移んはふおさめくゞおゝちゝゝ人よゞんゞゝと
れをゝれゞをゝ青ゝちかゝ文をゝたをゞんゞくはゝ
きゝひくゞ髪見ゝ百ゝ一体ゝ百ゝ寄ゝくゞやゝくく
ゝくゝ拍とゝゝゝ百ゝ人のゝ寄ゞそゝくゞゝゞ
ゝれゞ中ゝゝゝびふ迷ふゞゞ又一体をゝをゝてゞれとを
くゝ見ゝゞい妻ゝをたふれゝゝゝ。ふてをとゝて
三迷の川と海ゝんゝ海ゞくゝと髪海ゞゝふゝは
ゝばゞ。見ゝくおどゝゝゞ一体ゝ寄ゝくゞゝとゝゝくと
ゞあゞゝれゞ秋ゝゝんゞゝをゝゝくゞゝとゝゝくと
ゝゝくゞふゝくゞゝゝ見ゝゝ人と秋ゝゝ
よゝゝゞをゝゝゞゝ親ゝゝゝ海ゝくゞ

いとおりおきたるかと川へとびぢかに岩よりたくしそ
大ゐのさきにたるぐらとちがくを
男とともにてくちうふせをあれ
さくちづいと川へなげもそくろまくれば
ゐの長ふかるぐらにたれ計等くぺこそうびろう
ぞちくぺ白雲ふ手のりくぶめそにれられ
ぱくらかへるぐくておばくろくこ
(三)一休和尚山海の海と絵りまひ一時ひ石い山ふ中
ちきこ人おりくれいだんくにのがちくのまふぺ仏あれ
ば石生おりぺ石生あれば山海をありとしてくろあ
つぐこりぐきんとのまへばぺくぺさぐめへ

柳いみぐちれいくれおいとくみされつくんとあるれい一休
和尚とうく推しまふ地れぺ仏をれどくぺ柳がみぐちれくく
まるあれくくぺ和尚ゐふあるぐふすとくれんとのまふ。
さくくくしひく奥ぜくまきぺ海くれ同あいくく
むくくくりぺいくくぺりくくりくりくり和尚くきれかくゐり
くくぺ緑山の雲社とれをくくぺ法師れ
見くぺくくぺ一休かれるきれ絵ぺんぺりくくを書く
りくりんくくぺ和尚とれまりつ粉くしくれぺ一休
おぺくくくれぺ重乃のあくぐまくや宝くれ言あり
法師きゐんぺのよれ書くくくくせんくぺれくをくくがこ
き一句くぺくりくと一条ふ書ちくくぺれきれ

ぺ一山の傍らもあり。まろかう絵書の名傍ぺ山の
ものはまれなるべし。ねの世まぐ。寛大姫つき浴とかせ玉
ふ。そ中の玉傍のうるぺ山とのく書くり
いくるぺ一字とよめば。浴をわまらふたらくてぺ山
の玉ふ姫。そ一ぺいうにも大名子と書くべ。
ようこうこれいあるも絵ふ。いうにもこうやとうを
教こまうと。ぺ山たふらられば。休のまひうぺ紙
食いかう中。京大師のあそびうぺ大名も
玉紙ぺ絵とつぎやとべーとやされくしぺさてば
紙とつぐ也ぺ通もくしと大名子と書く。
ふりとしくやとうとべ。いそぎかとづせうと

ふーらば絵ふうと紙ぺのぐこ浴ますてぺ山ものく
絵ぐ絵よ。いざん乃食書のおうぺ。ふさうかの人おを
もこーくもつぎのぐーくぺ。さべ条紙くあんとく書
ふりくぬくももく紙よ。ことおつけぺさんけく
ふ親絵まぐ。ぺもどうふしくもくよめうぺ。法師蓮こ
のうぺ一ぺ絵たくあもとこ云ぺもこうとつぎくく不動絵
ーうぬすくこ。ぺもどうふうふうつもひうたしーくぺよめうく
くとおめうさ絵ぺ一山の法師ーうぬ。ぬとつふぺ。ぬ絵た
よめどもとうぺ。ぺられいうぺのわさきのぐうふうぺしの字。
ぬがくくと書くくーあやまうれい色うしのうぺ。
さ肉ー。ねもぬやぬびーうぬおけ人ふふくぺ一度よ帥

と失ひ、ろさされた今の世まのくをそこーの字の郷山
の貧僧と、あるくくるとくぷ法師達をつぎとらと
しうるしいやくいそれは紙衣を着かんじけるとこ
㊃あるく牧溪和尚の出家うしい。灵照女の絵とおけ
るが一休和尚の活機をうつすとやくに賛と書たりべと
くやうて一休へ書くまいりたのこそ
かるれこそやはりあれのぞこるべ賛しく為也
人と書やれ丸まひさくくと一書かきかのこよ
涙されるれるぐてとやくてきぬ枕をかるきは偽ず
とくまうらびぬ四へ偽り反逆おまこしびも日乗の絵
ふ一休の賛おされしく活りられば名ぢ見ヤさんと云。

やうて床よりけ落こ有見しくれがおまとうよ
海が紙の荒位の
貧と海よりもう
とあるそがくれが落へようこ
ゆるふ。廣居士と灵照女と庵ちくの賢人
とひ伝へ行ふ宝くさやくのんとも。おそば居
でさかくといろに名あるのうつるふ。涙ふ天下の
活祖師まくはまたくこ
㊄一休和尚へ金を山よ拾ぬ涙よなぐくくもあ
んはきさるれば。りくくもう一休のまうけぬうをた
ちけ。あくたくへふうくるれぬや大晦日の蕎

みちをうれば一僕よりやくしゃ。ぬかいえこまつ。ほんとうまつ。
せんぱいの本に一合とあり。あとまつわらで祝い一膳とし
ゑ。しるべをさうれば一体やまのひくぐそれいるげくうま
わるぐ。いざかしもの弱いく一様とあり。うけ。山ぶあ行
へ出る。打ちかつ。かつけ貴面りそれば。のびたまぐとまつ
ひうつ。ばちんぬぐろさ。一茶乃かりけとそそくに
げそれば。板社そくぱ。ぬ。しつ。一僕より色て。色
と代句。弱素とし。ひろ人ふが。たろ。ぐ人名そそ行
ひうろそく。一体とこ。ふ。等小猪ぐそれば。や。まる面
ぐとのふ。ぬろくぱ出るたそ。ぐ。ぐそれば。猿とく
まぐぬ。ん。とのふ。庵ふ。やまとに。ぬ。行。一市用ろう

とりせば一貫八文ばかりとかいつりやまたるとやく
ちりそれば三文ばかりとかいつりやまたるとやく
ひ一文ばかりとかいつけ銭ふ銭とかるも付れとも
ちれども月の大小日の数乃去品の代一貫文
但一数ゝ付一銭つゝ増へゝ書く儀ふ一句
笑ひぬとかいつ俗遣戒ふいあるゝどいくんとられば
悪の奇也形遣戒ゝあるゝ活使物あり意法
和尚ゝ書ゝ乃奇ゝ
秋来ゝまりゝと云ゝ乃ゝ
まゝびがゝゝ以用さゝびあり
と作ゝゝや銭れいゝゝ形遣戒とやゝびゝ成人

とはひゝゝ秋ゝ笑ひぬゝ俗ひゝ戒とやぶ
ゝゝ書也けゝゝや梅ゝ寺ふ出ひくゝゝ
人いゝ乃銭ゝく六文出ゝ形遣ゝく一貫八
みゝけまんゝ一ゝゝゝて人ゝ一貫二文出ゝ
十方ふ乃ゝゝ形ゝゝゝ俗仏ゝ
ゝゝひゝ地獄のゝゝ
銭ゝゝゝのゝゝゝゝ梅ゝおゝ
人やゝ悪ぜぬ人いゝゝゝ
六 或俗一体の活様ゝゝゝ
乃極ゝあゝゝ大遣ゝ乃ゝ

門おの酒屋へ行。酒ふこ[illegible]ひお後をまつ[illegible]を外の[illegible]
へぶ俗ごづほ為ぢ。今[illegible]俗ごやは[illegible]
ハと弱ほのふぢやは場ぢあれとしおこうれば一休
はは用いまぐさあぢ。うくくうとおいせ[illegible]に酒屋の又
六とふ[illegible]出くぢ酔眠ひ[illegible]俗ごうとやうれ
ぶ扱をまきこきやうく。一首うたく幸ふふうを
枕草ふそ[illegible]ふ

ざくらをいぢくれ[illegible]
とあそでくれぶ草まうとうぢうとふへふ俗
又為ぢくぢやおうあれとそふやせ[illegible]の酒
俗ぢまじゆせばぢこまぢ又おうこる鼠ぢいくふん

ぢうぢうく寝まひしぐぶ俗ぢうく俗行おうて
をおきあぢうまぢとやせばぢりくきぶ称ぢて
俗ぢこひまぬ時ぢおうて一回ぢけうぢぶ志いよく
為れ俗ぢべしくぢは庵俗一休のうまぶ不へぢあ
為く仏ぢまうぢくぢうど庵し。俗をいりぢしうぢ
おうて貝をいまぐさあきまうふ一紙声とあげて
西来ぢこの祖師乃俗ぢよ俗俗ありやとぢまへぢその
奥をつぢあへぬよ。一休をを大きうく
海ぢ俗ぢよとうくつきこうまへ法大祖師を
吉祖ぢとうひく為れうぢ。扱を活祖師れぢ
ぢは十ぢいせぢ。海ぢ俗ぢよ月ぢ時ぢは出まぢこと

言語ありて。感気をもよおしてめでくるひいろとこ

七 或時新左衛門推の話を尋しるに。一体ものしてえ

ものやみわるくいたづらのぬきづくしえ

他いたづらの推とうひまへい新左衛門とのこと、

うえくるは

たちとつふこばはのトふあつれく

ものそこう推よりさそはれれ

とゆりくれいぴ体れとうんぢくぴ一ものくうて一ふ

七百貫とゆうしのふしふ

八 蜂川新左衛門親者ものいこぢ智義ゆのたち

土ものぐくぴ和者のりくへ立入孫法ふ尋ぐしられろ。孫

ふ紙ふうぬ貫とうくえ正法玄義と称む。美推のまと

ひひいぢ一。和当とん面あひうひくぴくしに

ものくるもこうりへぴれ。ものいぢ業新ものく。寂城の家よ

つくんえ絡下のむしまち。ものいぢ

くぢひまうけ所ものうもぢ。收ものうぢ

くうぴ門くせあのまりぴのあく今りれかぢうふ名ものと

おくこぴまくひるげくぴよりれんうめもあるれて。

まくぬ神さへぬくくえ所ものうふぢこへうぴ。

るまうくんの形ふ一。まくくふ所あのそくまりぴまくん

くふひさ者中ふおりひ。美者楽ささへ見者くんぢ花

ありぬ面ものうれ三ものさへぢくくふ所要所

とりつまぬ西ぢうく来臣しまふぷーぎろりた中く
みぐぐろりーためーくぷぐひまるく新太郎いの西方
十百俵出格示せろいよ往生せーめくぷ九ふ上新のうて
るたうくんようぷたふぐろうとカうぐごーとおろうく
ひんふくこぶいるうろうぷれい落日ふちうきを土西
ぐ絶るれねるろ安まのやうくいぷ天ふまふぐ地ふふーぷたふ
たるんとぐろうひうろぷたの出格とぐやうーぷを中よ
嬉よいぷ新太郎がひぐれりたにすりそひ洞と神ふつくこ
ぶうーぷくたまぷ市んくぐだのりくふーめれく神
生安ぐまたそげまくとゆびとうておーくろぷを時就
西称じまろ眼とうろへーかひーぐ紙るとうろうこふ

らんぐぐれうるの出ふまれろ抱いたくいい安寺沢
新ふまりくぷ九ふ蓮寿ふ庭をを引袋おとうとを
ぐうたくあーぐ書流の麻ふ之を下麻を友のねると
ぐめりふ矢をくく抱まぐーとを中人おどうぐ麻
いうろうろぷはいうたとえろ不ふ親西弓勢うん
人ぐりをはをーまたぐーを汚ようんとふーき
ぐやぐーくうくう引をりぷたぐーうめくひやーと
をうりぷやまーぐをこいの中をぷひりとをりいく
をりふぷぐのひふうをとわうをうをくくをーく
をれぐぷをうーふわまりをうまんのようをはひぷろ
くの重前とおぐーをぷ皆時ふをくうげを

あり。ふるうるぞとまてうんとられば、そなふ人しーさ
ゆうひーあるぞうと、ぞうしーくぞうぞうう。嫁
よ希ろ。しの。ちぐいへ。一首の稚世と作わくこ云

生れぬうをわりぎふ死われを
くふ乃ゆ。ぞいい秋風ぞふく

ちやうふ。ちーー。陸奥とげのふ。奇ろうれ。寂寂
乃玄ぬと玄得ーく。彩度乃ちやうげとうひ。
ちう月。死へ。よ入ろぐ。活人乃移ふりとうぬうれ
ろうれ。せ人の松さうーちう。ぞ。後一休と等師
と。彩ちうぞ。引奇とうひうれば。一休とは。彩左人乃
ちうれ。一かちうりうりく。引等ちぐーーとたくーちう。

しておうせーふうやう。彩左巻乃ちぐいとうーのせ
ちく。ぞうりうれば。一休ちぐ。はひく。はひ。彩左巻乃ちぐ。さ
ろ。奇と。ーーちう。ちいへいぞ。ーーぞたーーうう。ぞ
と。ーー。一首乃。奇と。一休ようけろう。社いふーぞふ
ぞ。彩左巻乃ちぐ。ーーぞいわーーどーー。今のせちぐ。ちく
乃ちいへうーーう。乃ちりう。乃の奇よういちく

ひうり。ぞくーひうりうーうちう。紙ちう。紙
乃ちーーうんちーいふぞ。ちうーーさ
ーたりうーひうーうれば。ちーーー

来らばさこそなたとこそ一面ん
この新へい新右衛門とこそ
せどもありそうにて人々おもとゆくゆくは
わるべきぞ仏道の義のうりあるべくひと
つまゆかうこうとへいぶ新べきさねとのの
とぞうへ人々おうまうとうばとうるべも
いなうりそうにむこのうえ死してもはつびざかの
いいのちおぐしとへうかいかくうたわ一うるべ
九 新右衛門の妻いうけるこ時ちうべはよ
んこうこうぞけうしうれぶかうこうさんうも
おひのめぐこのくめーつうふとーいかもぞ夜中のか

さけうとうこうされば人々と表とうるみひか
ぶ悟乃居士とうれそひくぞたうこれとそし
らうこうそいうれしくひのこうるべしこふ
人ぐこれさこうこ新右衛門あけうれふびんふこひ
くうこうたんのうれいたまーわどうぐこ
あうれ初めをとこめうるぞうれを嘉ちうぐふ
うこうこみくぐうこうあうる時あもうつうせい
うれば女房うかとあうあくやしうるくう
あさ糸乃おなぐーんーひひうや
うひのふうれよつうふまん
とうぐ申やうれうこくおとうもせば親者おぐうこ

日乗のうまひよおそ遠しく雲のうんあまうら縁
るりそれいぶそびしくそひぶらぶあしゆるんあ
て行ふめびしくかんじろうぶふしぐるうれ今と
ぶそしうのだやそんふ男と俳を稼よそしさぐへ
るうとおびく しが梅い紙ち先よさちうるぶと
そひぶうさとまうさくうぶそ後いまぬのふけわさう
らびぶくのちらうふるうつもうぶニトあ角の
んとふ。ひつびるるぶくうれひふしそや
るうんひそんしとつくとうくぶふうんあぶ
ふ海そーやん新衣巻ふつげうる新衣巻りと
しうれうとそんじうるれまわぐうりうれた

うそくそひわくあすうるそくぶ拙とふのびぬおのこ
あうりうれいぶまげーのそんのんうふくぶそうるーて仕
おうりうるぶふくくいわふ。懐ぬのんうくあやくこ
うれいうくくれんあさのつぶたうぐさとのくがのはと
うふひしんとぶぐうふーくくれたちうくあく出よ
うるぶ三次の花でおうれあうぶふうれたわくうとる
さうれうるれいぶ嫁がたのんわうれくぶんぐんの
ーまぐくまうふうるぐ新衣巻後悔ーくく又まび
ひうんうくぶぐあやまうあうくーいたうう
うれいぶ女うくうるふ

秋風のんのんうるあんび

実のうねさたふ
とやうにたもおこせく。ぷてびうくぐりろぐと
まてうあでくのおきけたぐひあくぷいさだたうさふ
るまひかりてうくゆさうろうとぐかめねくあうし
とうんかうくうくうはうぷりてうくゆうりくえて
うれがぐこんてのうくふとでまうぐとうれもやぐと
うろうはがうくめふわくうて はうぐうれがうれ奇よ
ぐはまとうけぐうるーとこぷりしねうロれて
十一体和書の唐ちうきあうりふぷすめくとを
てかはううれうれうーぷ生まる拙るれば死ともうはうく
かうれうふむふーくうれつぷあさゆふまるれしー而

きうれぷかぬびんふおばいとかあーくくまり
はうれううんひとをさうぷ九恍惚云への拙ぐたと答
仏性とぐせうぷまーていうんやまる拙とやぷ死あ
ぬ山ことをの川めぐれやくこりぐうんぷうぐ若
えとたのくくぷ引寄うくきぐやくうひ一体の唐ふ
うぐまのくぷうくくのすたのこゃーたすうげうた
まばかりれ者乃身を出あいぐやまたすうり仏
いくくぬ仏はうせんうくぷ仏ふひうを也ぷ下より
寄うくうう
ひう稚者八十ことぐれうぐたおうく称うんよへ
今うんぐうを十かくひくぐたのやたぬ仏とぐ